



# みらい

校訓 『立志 清心 躍動』

学校だより No. 11  
令和7年11月28日



みな中 HP QR コード

冷え込みが一段と厳しくなり、冬の足音が近づいてきました。  
朝夕に吐く息が白く広がり、雪の便りも聞かれる季節となりました。  
また、校舎の窓から見える景色にも冬らしい装いが感じられます。

2学期もいよいよまとめの時期を迎え、生徒たちは学習や生活の振り返りに意欲的に取り組んでいます。今週で11月も終わり、来週からはいよいよ12月です。12月は「師走（しわす）」と言われますね。昔から『12月は、師（＝僧侶や先生）も走るほど忙しい時期』という意味で「しわす」と言うのが有名です。でも他にもいろいろな説があり、1年が終わる月だということから「年が果てる」と言う言葉が「年果（としあつ）」や「しあつ」などと変化していき、「しわす」となったというものや、万葉集や日本書紀で12月を「しわす」「しあす」と読んでいたことから、「師走」を当て字として使われたのではないかという説もあります。いろいろ調べてみるとおもしろいですね。寒くても元気いっぱい、頑張っていきましょう！



# 12月

## ◆キャリア教育講演会を行いました！

11月12日(水)に福井放送(FBC)の増谷寧々アナウンサーをお招きして、キャリア教育講演会を行いました。日頃の学校生活の中で、人前で発表するときに下を向いて恥ずかしそうに小声で話したり、原稿をまる読みしたりと、人前で話すことには苦手意識を持っている人が多いなと感じていました。そこで、話すことを職業にしているアナウンサーの方に来て頂き、みなさんに何かいいヒントをもらえたたらと思って企画をしました。

今回は「相手に伝わる話し方」というテーマで、増谷寧々さんがアナウンサーになろうと思ったきっかけや人前で話すときのポイントなどをお話していただきました。今回のお話では、

- ①周りの人の一言で人生は大きく変わることがあるので、友達やお家の方、先生方のアドバイスを大切にしてほしい。
- ②人生は一度きりだから、惜しまずチャレンジしてほしい（チャレンジするのは自由だし、タダ！）。
- ③人と話すときは、表情筋を柔らかくして笑顔で話すといい。そして、問い合わせも相手の答えが一言で終わらないように工夫すると、会話が続くようになる。（相手のことを想って会話する習慣を！）
- ④緊張しないようにするために120%の準備をして、結果100%で終わられるように考えている。
- ⑤失敗しても大丈夫！失敗したときは友達や同僚・仲間がきっと助けてくれる。そういう仲間を作つてほしい。などなど・・・ たくさんのためになるアドバイスをしていただきました。

今回、増谷アナウンサーのお話を聞いて、一人一人が自分にできることや大切にしていかなくてはいけないことなど、それぞれいろんなことを感じ取っていたようです。教えていただいたことを忘れずに、これから的人生を前向きに頑張っていってほしいと願っています。

《生徒の感想から》○講演会でやった口の体操を参考に、自然に笑顔でしゃべれるようにしたい。○これから職場体験の発表会に向けての練習が始まります。本番でいい発表をするためにも、これから練習でより良い準備をしないとなと今日の講演を聞いて思いました。

○「チャレンジしていくことが大切！」だということがとても伝わってきたので、（自分もやらずに後悔することが多いので）失敗してもその経験を自分なりに吸収して、チャレンジしていきたいです。○誰かの一言で自分の人生が変わるかも知れないので、周りの人たちが言ってくれたことを大切にしい。

私がやったことなど、誰にもできる事だ。

ポイントはただ一つ。

心から『やろう』と思ったかどうかである。

心が思わないことは、絶対に実現できない。

by カーネルサンダース

